

**研究拠点形成事業**  
**平成26年度 実施計画書**

B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	京都大学総合博物館
(中国) 拠点機関：	山東大学
(韓国) 拠点機関：	ソウル国立大学
(ベトナム) 拠点機関：	ベトナム科学技術院生態学生物資源研究所
(タイ) 拠点機関：	チュラロンコン大学
(マレーシア) 拠点機関：	マラヤ大学
(インドネシア) 拠点機関：	インドネシア科学院生物研究センター

2. 研究交流課題名

(和文)：アジア脊椎動物種多様性の研究者・標本・情報一体型ネットワーク拠点  
(交流分野：生物学)

(英文)：Asian Vertebrate Species Diversity Network Platform with Combining  
Researchers, Specimens and Information  
(交流分野：Biology)

研究交流課題に係るホームページ：<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/acore/>

3. 採用期間

平成26年 4月 1日 ～ 平成29年 3月31日  
(1年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：京都大学総合博物館

実施組織代表者(所属部局・職・氏名)：京都大学総合博物館・館長・大野照文

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：京都大学総合博物館・准教授・本川雅治

協力機関：なし

事務組織：京都大学研究国際部研究推進課

相手国側実施組織(拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名：中国

拠点機関：(英文) Shandong University

(和文) 山東大学

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文)

Marine College・Professor・LI Yuchun

協力機関：(英文) Guangzhou University  
(和文) 広州大学  
協力機関：(英文) Chengdu Institute of Biology, Chinese Academy of Sciences  
(和文) 中国科学院成都生物研究所

(2) 国名：韓国

拠点機関：(英文) Seoul National University  
(和文) ソウル国立大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文)  
College of Veterinary Medicine・Professor・LEE Hang

(3) 国名：ベトナム

拠点機関：(英文) Institute of Ecology and Biological Resources,  
Vietnam Academy of Science and Technology  
(和文) ベトナム科学技術院生態学生物資源研究所

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文)  
Department of Vertebrate Zoology・Researcher・NGUYEN Truong Son

協力機関：(英文) Vietnam National Museum of Nature,  
Vietnam Academy of Science and Technology  
(和文) ベトナム国立自然博物館

(4) 国名：タイ

拠点機関：(英文) Chulalongkorn University  
(和文) チュラロンコン大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文)  
Faculty of Science・Professor・PANHA Somsak

(5) 国名：マレーシア

拠点機関：(英文) University of Malaya  
(和文) マラヤ大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文)  
Institute of Biological Sciences・Professor・HASHIM Rosli

(6) 国名：インドネシア

拠点機関：(英文) Research Center for Biology, Indonesian Institute of Sciences  
(和文) インドネシア科学院生物研究センター

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：(英文)  
Research Center for Biology・Researcher・HAMIDY Amir

## 5. 全期間を通じた研究交流目標

アジアは世界的にも生物多様性が高い一方で、文化や言語の多様性とも関連して、生物多様性に関する研究者・標本・情報の国境を越えた多国間共同体制や共有が十分に進んでこなかった。本研究課題では、脊椎動物種多様性に着目し、研究者・標本・情報の一体型ネットワーク拠点の形成を目指す。標本や情報（文献・写真・録音・映像・フィールドノート・研究データなど）は研究の基盤となるだけでなく、研究の証としても将来にわたって重要である。したがって、脊椎動物種多様性の研究基盤とは、研究者、標本、情報が一体となつてつながったものとなるのが重要である。日本、韓国、中国、タイ、ベトナム、マレーシア、インドネシアの拠点機関となる 7 ヶ国と日本側メンバーとして参加するミャンマー、カンボジア、フィリピンの 3 ヶ国の東・東南アジアをほぼ網羅した計 10 ヶ国からのメンバーにより、交流期間を通じて、1. アジア多国間共同研究の実施と共通した種分類体系の構築、2. 原産国を基本にした標本収蔵と 21 世紀型標本ネットワークモデルの確立、3. アジア多言語で蓄積・生成される生物多様性情報の活用、4. 非言語による生物多様性データの収集・活用手法の開発、5. 国際的に活躍する生物多様性若手人材の育成、6. アジアの生物多様性と文化多様性の調和のとれた保全の模索、を本研究課題の目標として、アジア脊椎動物種多様性の研究者・標本・情報一体型ネットワーク拠点を形成する。

## 6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成 26 年度から開始

## 7. 平成 26 年度研究交流目標

<研究協力体制の構築>

日本、中国、韓国、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシアの拠点・協力機関およびその他の機関、ならびに日本側メンバーとして参加するフィリピン、カンボジア、ミャンマーの計 10 ヶ国の参加者が研究協力体制の構築をすすめる。本研究は、平成 23～25 年度の日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業により、京都大学総合博物館を拠点機関として中国・韓国・ベトナムと進めてきた「東アジア脊椎動物種多様性研究基盤と標本ネットワーク形成」の実績をもとに、内容を発展させ、参加国も東アジアから東・東南アジアに拡大したものである。すでに京都大学総合博物館-広州大学生命科学学院、京都大学総合博物館-山東大学海洋学院、京都大学総合博物館-ベトナム科学技術院生態学生物資源研究所、京都大学総合博物館-ベトナム科学技術院ベトナム国立自然博物館、京都大学人間・環境学研究科-中国科学院成都生物研究所では、部局間学術交流が締結され、研究交流を活発に展開する予定である。一方、本年度はインドネシア科学院生物研究センターと共同研究合意書を作成する予定である。さらに京都大学と大学間学術交流協定が、本プログラムの参加メンバーが所属するソウル国立大学、ハノイ国家大学、チュラロンコン大学、マラヤ大学、インドネシア科学院と締結されている。京都大学が全学体制で進めている ASEAN 各国との共同体制の構築事業も合わせて、本事業の基礎はすでに構築されているので、それが有効に機能するように努める。実質的なメンバーの交流やネットワーク形成の場として、国際シンポジウムを開催し、各国の主要メンバーおよび若手メンバーが集う。また、共同研究や国際セミナーの開催においても研究協力体制の強化をはかる。共同研究として

は2つのテーマ R-1 と R-2 を設定するが、いずれも相互に密接に関連した内容であるために、全ての参加メンバーが両方の共同研究に参加する。なお、本研究課題に関連して、中国・中国国家自然科学基金委員会国際重大共同研究プロジェクト（中国側コーディネーターが研究代表者）、タイの国家事業である生物多様性 COE 事業（タイ側コーディネーターが事業責任者）との連携をはかっていく。平成 26 年度の活動を通じて、アジア脊椎動物研究者のネットワーク構築が進められ、次年度以降の活発な活動の基礎形成が進むことが期待される。

#### <学術的観点>

アジアは世界的に見ても生物多様性が高いが、近年の急速な経済成長によって、陸上脊椎動物の多くが個体数を減少させ、絶滅に瀕していると考えられている。一方で、陸上脊椎動物では小型のものをはじめとして、現在までにその種分類が混乱したものが多く、フィールドワークによる資料収集とその形態・遺伝解析によって、種分類体系の改変や確立が必要である。アジアの陸上脊椎動物の分類の混乱の背景には、国境を越えて広域に分布する種が多い一方で、国境を越えた種分類体系の共通認識の確立や共同研究の実施が十分に行われていないために、国ごとに独自の分類体系が使われていること、また研究の基盤となる標本・言語情報・非言語データの収集や活用が不十分なことがあげられる。研究者、標本、情報について、アジアの陸上脊椎動物種多様性研究における多国間のネットワーク型研究基盤の構築を進めていくとともに、それを活かして、広域分布種をはじめとした種分類体系の改変を進めていきたい。フィールドワークや標本調査といった従来の手法での研究を進展させるとともに、写真、音声など標本に附随するデータや情報、多言語の枠組みでの既存文献の網羅的調査など、アジア脊椎動物種多様性のより正確な理解に向けた、新しい手法や研究枠組構築への取り組みをはじめめる。なお、本事業と関連して本年度は京都大学総合博物館に中国側メンバー1名を客員教授として3ヶ月間招へいする予定である。

#### <若手研究者育成>

本研究課題は大きな枠組みでは、生物多様性に関わる内容である。地球規模での生物多様性や環境変動に関わる問題は社会的にも注目されているが、その解決には、1. 高い専門性を有する研究者、そして2. 研究バックグラウンドをもち、社会との関わりを考慮しながら、関連課題に様々な形でかかわる人たちの存在が重要である。本研究課題ではこれら2種類の人材育成を目指しているが、いずれにおいても習得すべき能力は共通である。それは専門的な研究技能や能力の習得、研究者間あるいは一般社会とのコミュニケーション・交渉能力、アジアに生きる国際人としての英語とできれば第3言語の習得である。そして、そうした能力を活用して、あらゆる現場で限られた時間で物事を判断し、決断していくことのできるリーダを育成することである。共同研究による実践的若手研究者育成を進めるため、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシアからそれぞれ1名、計4名の若手研究者を日本に招へいし、共同研究を進めながら研究手法についての習得を目指す。同時に国際セミナーや日本国内学会大会などに参加し、発表スキルの向上と日本の関連研究者との研究交流を進める。また、セミナーS-1として開催する国際シンポジウムには各国の若手研究者を参加させ、口頭発表、座長などを担当してもらうとともに、優秀発表賞を設けて研究発表への意欲向上をはかる。本事業と関連してベトナム側メンバー2名、インドネシア側メンバー1名が日本学術振興会の論博取得支援事業により、3ヶ月間来日し、研究指導を受ける予定である。また、日本側メンバー2名は中国側拠点機関の博士課程共同指導

教員となっており，国境を越えた大学院生への研究指導が行われる．

<その他（社会貢献や独自の目的等）>

本研究課題が取り組む生物多様性は社会的な関心が高い分野である．拠点機関である京都大学総合博物館の社会連携活動ともリンクさせながら，研究課題の成果を社会に積極的に発信していく取り組みも進める．また，京都大学総合博物館が独自に進めているアジア各国の研究型博物館との協力体制・ネットワーク構築とも密接にリンクさせ，本研究課題がより大きな成果をあげることを目指す．

## 8. 平成26年度研究交流計画状況

### 8-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成26年度	研究終了年度	平成28年度
研究課題名	(和文) フィールドワークと標本調査によるアジア脊椎動物種多様性研究 (英文) Asian Vertebrate Species Diversity Research based on Fieldworks and Specimen Survey				
日本側代表者 氏名・所属・ 職	(和文) 京都大学総合博物館 准教授 本川雅治 (英文) MOTOKAWA Masaharu・ The Kyoto University Museum, Kyoto University・Associate Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・ 職	(英文) 中国 LI Yuchun Shandong University, Marine College・Professor 韓国 LEE Hang Seoul National University, College of Veterinary Medicine・Professor ベトナム NGUYEN Truong Son Institute of Ecology and Biological Resources VAST, Department of Vertebrate Zoology・Researcher タイ PANHA Somsak Chulalongkorn University, Faculty of Science・Professor マレーシア HASHIM Rosli University of Malaya, Institute of Biological Sciences・Professor インドネシア HAMIDY Amir Research Center for Biology, Indonesian Institute of Sciences・ Researcher				
参加者数	日本側参加者数	33名			
	中国側参加者数	41名			
	韓国側参加者数	10名			
	ベトナム側参加者数	15名			
	タイ側参加者数	6名			
	マレーシア側参加者数	11名			
	インドネシア側参加者数	11名			

<p>26年度の 研究交流活動 計画</p>	<p>平成26年度は本事業経費により日本側4名が参加する中国での14日間のフィールドワーク(5~6月頃)、日本側1名(+別経費2名)が参加するベトナムでの20日間のフィールドワーク(9~10月頃)を行い、フィールドワークによるデータや標本収集と、それらに基づく種多様性の実態解明に取り組む。別経費で、中国、ベトナム、マレーシアなどでの同様のフィールドワークも行われる予定で、本研究課題と連携させる。また、共同研究を進め、若手研究者育成をはかるために、10~11月にタイ、ベトナム、マレーシア、インドネシアから4名の若手研究者を15日間京都大学に招へいする。共同研究、フィールドワーク、国際セミナー(セミナー2として実施)、国内学会への参加による日本研究者との学術交流などを組み合わせた活動を行う。また、マレーシアで11月頃に開催予定の国際シンポジウムでは、同時に共同研究も実施する。若手研究者を含めた各国メンバーが集い、共同研究を開始する。</p>
<p>26年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果</p>	<p>参加メンバーが含まれる拠点国7ヶ国+3ヶ国の東・東南アジアをほぼ網羅する10ヶ国での多国間共同研究の枠組み構築が進むことが期待される。広域分布種をはじめとして、アジア脊椎動物種多様性の実態解明の進展が期待される。フィールドワークや標本調査を進めていく上で、手続きや各国の法令事項などについての具体的な問題についても議論が進展するであろう。脊椎動物種多様性については、初年度でもあることから、各国の知見を洗い出し、広域多国間枠組みでの学術的問題の発見とその解決に向けた具体的な共同研究展開の方向を見いだすことができ、一部については論文発表につながる研究成果が得られることが期待される。</p>

整理番号	R-2	研究開始年度	平成26年度	研究終了年度	平成28年度
研究課題名	(和文) アジア多国間研究ネットワークに基づく標本・情報の新しい活用 (英文) Development of New Use of Specimens and Information based on Asian Multilateral Research Network				
日本側代表者 氏名・所属・ 職	(和文) 京都大学総合博物館・教授・大野照文 (英文) OHNO Terufumi Kyoto University, The Kyoto University Museum・Professor				
相手国側代表 者 氏名・所属・ 職	(英文) 中国 LI Yuchun Shandong University, Marine College・Professor 韓国 LEE Hang Seoul National University, College of Veterinary Medicine・Professor ベトナム NGUYEN Truong Son Institute of Ecology and Biological Resources VAST, Department of Vertebrate Zoology・Researcher タイ PANHA Somsak Chulalongkorn University, Faculty of Science・Professor マレーシア HASHIM Rosli University of Malaya, Institute of Biological Sciences・Professor インドネシア HAMIDY Amir Research Center for Biology, Indonesian Institute of Sciences・Researcher				
参加者数	日本側参加者数	33名			
	中国側参加者数	41名			
	韓国側参加者数	10名			
	ベトナム側参加者数	15名			
	タイ側参加者数	6名			
	マレーシア側参加者数	11名			
	インドネシア側参加者数	11名			
26年度の 研究交流活動 計画	本共同研究は共同研究 R-1 と同様に全てのメンバーが参加して行う。フィールドワークや標本調査による従来の種多様性研究に加えて、写真、音声などの資料や情報を有効に活用し、フィールドワークや標本と適切にリンクしながら研究成果に結びつけていくための手法開発を進める。初年度であることから、各国における資料や情報の蓄積・活用状況を認識するとともに、多国間の枠組みで資料や情報の共有に向けた事項について議論を進める。メンバーが重複するので、渡航や招へいは共同研究 R-1 で行うものとリンクする。4名の若手研究者を招へいする10月頃にセミナーS-2として、本共同研究課題を議論する国際セミナーを京都大学で開催する。				



<p>26年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果</p>	<p>拠点機関である京都大学総合博物館ではアジア地域における研究型博物館のネットワーク構築を進め、標本を中心とした事項についての議論を進めてきた。一方で、写真、音声、映像などの研究資源アーカイブの研究利用を進めることの重要性について認識するようになった。脊椎動物を対象に、本共同研究により、初年度は各国での状況を共有し、新しい資料や情報の活用が進展することが期待される。同時に、これから収集される資料や情報についてのガイドラインや標準化、公的保管など、将来の蓄積・活用につながる基盤形成についての議論をはじめることが期待される。</p>
--	--

8-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「第4回アジア脊椎動物種多様性国際シンポジウム」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program “4th International Symposium on Asian Vertebrate Species Diversity “
開催期間	平成26年11月 日 ~ 平成26年11月 日 (2日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) マレーシア・クアラルンプール市・マラヤ大学
	(英文) Malaysia: Kuala Lumpur: University of Malaya
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 京都大学総合博物館 准教授 本川雅治
	(英文) Kyoto University, The Kyoto University Museum Associate Professor・MOTOKAWA Masaharu
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) HASHIM Rosli University of Malaya, Institute of Biological Sciences・ Professor

参加者数

派遣先 派遣	セミナー開催国 (マレーシア)	
	A.	B.
日本 <人/人日>	A.	12/ 60
	B.	3
中国 <人/人日>	A.	2/ 10
	B.	2
韓国 <人/人日>	A.	2/ 10
	B.	2
ベトナム <人/人日>	A.	3/ 15
	B.	0
タイ <人/人日>	A.	3/ 15
	B.	0
マレーシア <人/人日>	A.	8/ 16
	B.	25
インドネシア <人/人日>	A.	3/ 15
	B.	0
合計 <人/人日>	A.	33/ 141
	B.	32

- A. 本事業参加者（参加研究者リストの研究者等）  
 B. 一般参加者（参加研究者リスト以外の研究者等）

※日数は、出張期間（渡航日、帰国日を含めた期間）としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>本事業の各国メンバーが集い、事業計画を共有するとともに、アジアにおける脊椎動物の種多様性研究の現状について研究発表を通じた学术交流を行う。本シンポジウムはメンバーのみでなく、関連研究者の広い参加と発表の場を設ける。2011～2013年度の日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業として、中国・広州、京都、ベトナム・ハノイで3回開催したEast Asian Vertebrate Species Diversity 国際シンポジウムを「東アジア」から「アジア」に地域拡大による名称を変更するものの、継続して第4回として開催する。若手研究者の口頭発表の機会を優先的に確保し、優秀発表賞の表彰制度も設ける。初年度であるので、メンバー相互の研究者交流の機会として、また東・東南アジアをほぼ網羅し、アジア研究者によるはじめての脊椎動物種多様性国際シンポジウムとして、様々な内容について活発な議論と研究交流・ネットワーク構築の機会を提供する。</p>		
<p>期待される成果</p>	<p>アジア広域における脊椎動物の種多様性の現状について、参加メンバーが研究の現況を共有し、本事業により共同研究・ネットワーク構築を効果的に進めるための有効な議論がなされることが期待される。また日本を含めた各国からの若手研究者が多数参加し、研究発表をすることから研究者育成にも大きな効果が期待される。本事業拠点国7ヶ国だけでなく、台湾、シンガポール、フィリピン、カンボジア、ラオス、ミャンマーなどの関係研究者にも広報を行うことにより、多くの研究者が参加すれば、アジアにおける種多様性研究の進展が期待される。さらに、フィールドワーク、標本や遺伝子資源などについての、各国の法令など、研究を進める上での現実的な事項についても実践的な議論が進むことが期待される。</p>		
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>日本側、マレーシア側実施責任者を Co-chairman とする両国メンバーによる実行委員会を結成する。メンバー構成については4月中旬に確定する予定。</p>		
<p>開催経費 分担内容 と概算額</p>	<p>日本側</p>	<p>内容 講演要旨集印刷費</p>	<p>金額 150,000 円</p>
	<p>(マレーシア) 側</p>	<p>内容 会場費</p>	

整理番号	S-2
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業 国際セミナー「標本や研究情報の新しい活用によるアジア脊椎動物種多様性研究」
	(英文) JSPS Core-to-Core Program International Seminar “Asian Vertebrate Species Diversity Research with New Utilization of Specimens and Research Information “
開催期間	平成 26 年 1 0 月 日 ~ 平成 26 年 1 0 月 日 (1 日間)
開催地 (国名、都市名、会場名)	(和文) 日本 京都市 京都大学
	(英文) Japan: Kyoto: Kyoto University
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 京都大学総合博物館・准教授・本川雅治
	(英文) Kyoto University, The Kyoto University Museum Associate Professor・MOTOKAWA Masaharu
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文) なし

#### 参加者数

派遣先 派遣	セミナー開催国 (日本)	
	A.	B.
日本 〈人／人日〉	A.	10/ 10
	B.	5
中国 〈人／人日〉	A.	2/ 2
	B.	2
韓国 〈人／人日〉	A.	0/ 0
	B.	1
ベトナム 〈人／人日〉	A.	3/ 3
	B.	0
タイ 〈人／人日〉	A.	2/ 2
	B.	0
マレーシア 〈人／人日〉	A.	1/ 1
	B.	1
インドネシア 〈人／人日〉	A.	1/ 1
	B.	1
合計 〈人／人日〉	A.	19/ 19
	B.	10

- A. 本事業参加者（参加研究者リストの研究者等）
- B. 一般参加者（参加研究者リスト以外の研究者等）

※日数は、出張期間（渡航日、帰国日を含めた期間）としてください。これによりがたい場合は、備考欄を設け、注意書きを付してください。

セミナー開催の目的	アジア脊椎動物種多様性研究ではフィールドワークや標本と同時に、写真、音声、映像などの資料や多言語で書かれた既知文献が重要である。しかしながら、それらが有効に活用されているとはいえず、特に多国間枠組みでの活用はほとんど行われていない。本国際セミナーでは、日本、中国、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシアのメンバーが集い、フィールドワークでの資料収集とその活用状況、地域情報学や博物館情報学の専門家も交えた標本や研究資料の新しい活用についての情報交換と議論を行う。		
期待される成果	拠点機関である京都大学総合博物館は、研究型博物館として標本や研究資源アーカイブの保存・研究利用についての実績をもつ。この経験を活かしながら、アジア各国のフィールドからの標本や資料の現状を把握し、多国間の枠組みでの標本や研究資料の新しい活用、そのために必要なルール作り、様々な問題点の整理が進むことが期待される。		
セミナーの運営組織	実施責任者：京都大学総合博物館・准教授・本川雅治		
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容 なし	金額

### 8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

平成26年度は実施しない

## 9. 平成26年度研究交流計画総人数・人日数

### 9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣	日本 〈人/人日〉	中国 〈人/人日〉	韓国 〈人/人日〉	ベトナム 〈人/人日〉	タイ 〈人/人日〉	マレーシア 〈人/人日〉	インドネシア 〈人/人日〉	合計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		4/56 ( 2/30 )		1/20 ( 5/90 )		12/70 ( )	( 1/10 )	17/146 ( 8/130 )
中国 〈人/人日〉	( 2/99 )					2/10 ( 2/10 )		2/10 ( 4/109 )
韓国 〈人/人日〉						2/10 ( 2/10 )		2/10 ( 2/10 )
ベトナム 〈人/人日〉	1/15 ( 3/134 )					3/15		4/30 ( 3/134 )
タイ 〈人/人日〉	1/15 ( 1/5 )					3/15		4/30 ( 1/5 )
マレーシア 〈人/人日〉	1/15 ( )							1/15 ( 0/0 )
インドネシア 〈人/人日〉	1/15 ( 1/90 )					3/15		4/30 ( 1/90 )
合計 〈人/人日〉	4/60 ( 7/328 )	4/56 ( 2/30 )	0/0 ( 0/0 )	1/20 ( 5/90 )	0/0 ( 0/0 )	25/135 ( 4/20 )	0/0 ( 1/10 )	34/271 ( 19/478 )

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

### 9-2 国内での交流計画

0 / 0 〈人/人日〉
--------------

10. 平成26年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	0	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	5,640,000	
	謝金	450,000	
	備品・消耗品 購入費	61,000	
	その他の経費	150,000	
	外国旅費・謝 金等に係る消 費税	499,000	
	計	6,800,000	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料		680,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合 計		7,480,000	